

御神札は神棚を設けてお祀り致しましょう



茅葺神殿



三社造り



一社造り

神殿、神具等をお頒ちしております。ご希望の方は神棚を設ける場所や、お祀りする御神札等々本書をご覧下さい。

かやぶき

茅葺神殿は、伊勢の神宮で二十一年に一度斎行される御遷宮の御用材残材で調製された神殿をお頒ちしております。そのほかの神殿神具は「神棚の里」静岡木工の木匠が心を込めて謹製した品々をお頒ちしております。

三社造り、一社造り、御祈禱神札用、モダンな壁掛タイプ等ございますので皆様の神祭りのお心に添った形をお選びになってお祀り下さい。



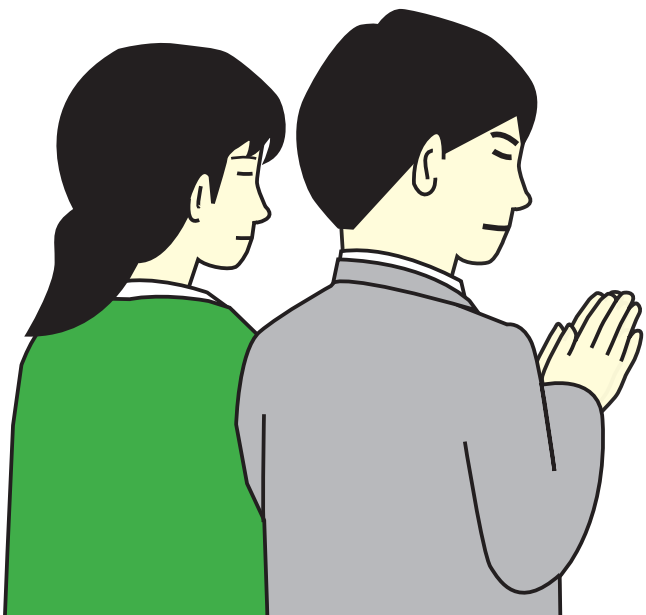
御祈禱神札用



壁掛神殿



モダンな壁掛タイプの一例



心豊かな暮らしの基本は
家庭の祭り(日々のお参り)です

◆おまつりする御神札

天照皇大神宮

神宮大麻 (初穂料一四〇〇円)
日本国の総氏神様である伊勢神宮の御神札です

氏神様の御神札

氏神様の御神札
※箱根全山各地区神社の御神札 (初穂料五〇〇円)

箱根神社御神璽

崇敬する神社の御神札
箱根神社 (初穂料一〇〇〇円)
(箱根大神様の御神札です)

九頭龍神社神璽

九頭龍神社 (初穂料一〇〇〇円)
(九頭龍神様の御神札です)

大年神御璽

大年神様 (初穂料五〇〇円)
おとしがみ
(新年に新しい歳・生命を頂く神様の御神札です)

竈三柱大神御璽

竈の神様 (初穂料五〇〇円)
かまど
(鎮火の神様の御神札です)

◆御祈禱の御神札は神殿の横にお祀り下さい。

◆氏神様の御神札は、お住いの地域の氏神様でお受け下さい。尚、箱根全山各地区の氏神様の御神札は用意してございますのでお申し出下さい。

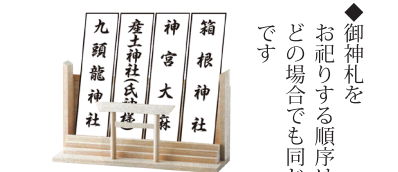
◆御神札のまつり方



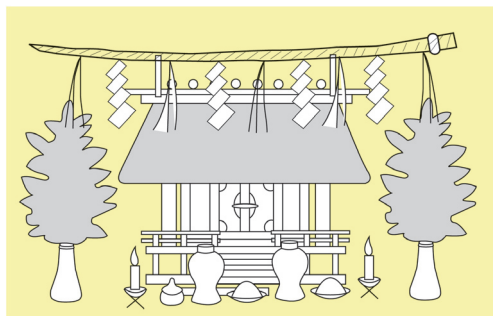
◆三社造の場合
↑上図のように
右が氏神神社
中央が伊勢神宮
左が崇敬神社
の順序で左右に
お祀りします
↓下図は、
他の御神札を
加えた場合の
一例です



◆一社造の場合
↑上図のように
最初が伊勢神宮
次が氏神神社
次が崇敬神社
の順序で前後に
お祀りします
↑上図は、
他の御神札を
加えた場合の
一例です



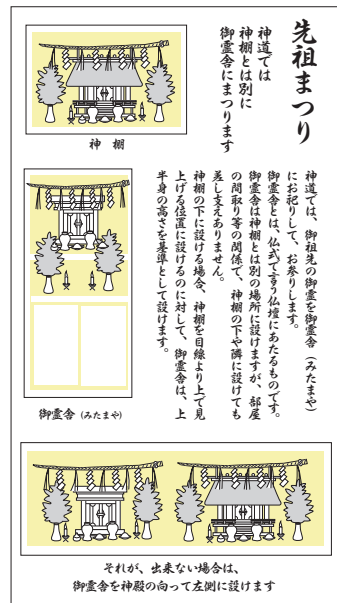
◆御神札を
お祀りする順序は
どの場合でも同じ
です



① 奥行きがなく一列でお供えする場合



② 折敷でお供えする場合
(三列でお供えする)

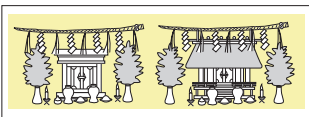


先祖まつり

神道では、
神棚とは別に
御霊舎にまつります



御霊舎 (みたまや)



それが、出来ない場合は、
御霊舎を神殿の向って左側に設けます

◆神棚をまつる場所

◆お参りや御祈禱でいだかれたお札など、神棚をお持ちでない方は、新しく神棚を設けてお祀りされるのが、神様は一番喜ばれます。諸事情で、現在神棚を設けておられない方は、次のようにお祀り下さい。

① 目より高い所で、清浄な所。例えば、サイドボードやタンスの上や、サイドボード上段の内部でも結構です。但し、お札の周囲が散らかっていたり、すぐ横に物を置いたりしてはいけません。お札の周りは、いつも綺麗に致しましょう。お札の前に、お供えの出来るスペースがあれば、尚、結構です。他には、壁面に棚板を設けてその上にお祀りされてもよろしいでしょう。

② お札の向きは、お札の正面が、南または東方面を向くようにして下さい。神様が南または東を向かれるようにお祀りします。つまり、神様に住みよい環境の南または東方面向きの住宅(お社)に住んでいたと考えると、ただければ、わかり易いと思います。

でも、真南や、真東にこだわらなくても結構です。住宅の状況で、南や東向きにお祀りすると、とても変な場所になってしまう場合もあるはずですが、そんな時は、方角にこだわらず、お祀りするお部屋の中で、一番ふさわしいと思われる場所で結構です。

その部屋の中で「神様も落ち着かれ、ご自身も一番落ち着く場所」にお祀りして下さい。そこが最良の処です。③ いつでもお参り出来る家の中心、家族が集まる場所や、お供えなど、お世話しやすい場所等も考えてお祀りされるものよろしいでしょう。

◆古札の納め方

◆御神札を授かった神社、又は氏神様の納札所に納めます。納める時には、神様からいただいた御神徳に感謝の真心を込めてお参り致しましょう。どんど焼きの時に正月飾りと一緒にお焚き上げするのもよろしいでしょう。

◆ゴミと一緒に燃やしたりしてはいけません。

お問合せ 箱根神社社務所

〒250-0522 神奈川県足柄下郡箱根町元箱根八〇一
電話番号 〇四六〇・八三・七二二三
FAX番号 〇四六〇・八三・六六六九